

# 「1964年東京オリンピック 聖火リレー」の思い出

今年は1年遅れの東京オリ・パラの年。7月に開催を控えた現在、東京五輪組織委員会は会長交代人事で大混乱、橋本聖子氏で着地し準備が急ピッチで進んでいるような今日この頃です。しかしながらそんな騒ぎをよそに、私は56年前日本が戦後復興のシンボルとして世界に羽ばたいた第18回東京オリンピックに想いを馳せています。その年の私は高校2年生。陸上競技部に所属し1年次の右も左もわからなかった競技生活から、2年次にあって、やっと自身の競技に少しの自信が湧き始めた頃であつたと記憶しています。丁度その頃に巡り合った東京オリンピックでした。この紙面では長野県内で56年前に実施された「1964年聖火リレー」を、当時の資料を辿りながらご紹介致します。

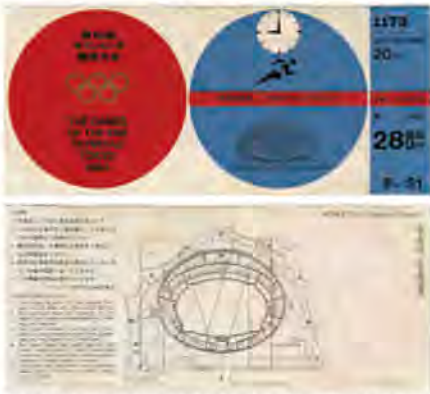


山崎一郎さん～中継所「裁判所前」にて

1964年東京オリンピックの開会式は10月10日に挙行されましたが、長野県内での「聖火リレー」は軽井沢町での馬術競技

リレー隊員氏名				
区分	氏名	学年	学校	住所
区長	石田 肇一	17	上田高専学校	小南郡和田村
副区長	松 隆 秀 夫	17	*	上田市新野町
*	中山 勲 夫	17	*	上田市南天神町
副区長	武 沢 三 雄	18	*	上田市緑ヶ丘
*	山 崎 一 郎	17	*	上田市
*	石 沢 隆 夫	16	*	下野山村
*	北 沢 清 美	17	*	小南郡和田町
*	藤 原 功 夫	17	*	上田市
*	藤 原 誠 夫	17	*	上田市
*	神 宮 英 夫	17	*	小南郡川西村
*	高 橋 聖 夫	17	*	上田市
*	中 野 義 一	18	*	上田市上野2丁目
*	石 中 弘 光	17	*	上田市
*	三 井 行 雄	17	*	小南郡和田町
*	小 山 誠 夫	17	*	小南郡相生町
*	宮 下 明 彦	17	*	上田市
*	山 野 隆 夫	17	*	上田市
*	藤 本 武 夫	17	*	上田市
*	藤 田 武 夫	17	*	上田市
*	藤 田 武 夫	17	*	上田市
*	藤 田 武 夫	17	*	上田市
*	藤 田 武 夫	17	*	上田市
*	藤 田 武 夫	17	*	上田市
*	藤 田 武 夫	17	*	上田市

聖火リレー名簿「上田高校」



山崎さんが観戦した陸上競技のチケット（表と裏）

「10月14日 14:00聖火がヘリコプターにて川中島町に到着  
14:20川中島町を出発↓14:34篠ノ井市↓14:57更埴市↓15:30戸倉町↓15:56坂城町↓18:28上田市（市役所一泊）」

ここから上田城南高校により、19番目の「千曲バス駐車場前」に到着。続いて我が上田高校に引継がれ、20番目の「裁判所前」迄のリレー。そして、いよいよ

「聖火リレー」の高校5校による「聖火リレー」が無事完走致しました。それ以降の東部町から軽井沢町間も聖火は

リレー」は軽井沢町での馬術競技に合わせ、10月14日と15日に川中島町と軽井沢町間75・5km、45区間で実施されました（下記市町村名は当時の呼称）。全体の「聖火リレー」は、沖繩がスタートとなり国内を北上しましたが、その経路は手元に資料がないうえ私の記憶も定かでない、ご紹介できないのは残念です。

そこで、2日間にわたる「聖火リレー」の内、上田市内についてご紹介いたします。  
尚、高校名、中継地点名などは当時発表された表示を使用しています。

聖火は国道18号線を南下し、坂城町から17番目の中継所「上田市標前」で上田城南高校のリレー隊員（生徒）に引継がれ、「塩尻小学校前」まで走行。  
ここから上田城南高校により、19番目の「千曲バス駐車場前」に到着。続いて我が上田高校に引継がれ、20番目の「裁判所前」迄のリレー。そして、いよいよ

よ「裁判所前」から第1日目の最終目的地21番目の「上田市役所前」まで、我が陸上も他の運動班メンバーと共にリレーに参加。正走者は当時3年生の羽田健一郎氏（現 陸文会会長）、隋走者として当時キャプテンの成澤三雄氏（現陸文会関東支部長）、2年生では石沢健司氏、北沢清美氏、荻原功氏（故人）の合計6名で、私も陸上の一員として参加しました。

聖火は市役所で一泊し、翌日は「上田市役所前」から18号線沿いの22番目の中継地「日本無線KK前」までを上田千曲高校、そして「神川バス停留所」までは上田染谷丘高校がリレー。次の24番目「大屋駅入口」までは、上田千曲高校が再度リレーし「信濃東部自動車教習所前」へ、そこから「田中バス停留所」までは上田東高校が担当。上田市内

の高校5校による「聖火リレー」が無事完走致しました。それ以降の東部町から軽井沢町間も聖火は

順調にリレーされました。各中継地点間の距離は、最短1・0kmから最長2・0kmの間で設定され、1区間当たり正走者及び隋走者合計23名の高校生が1団となり、45区間、総勢1,035名が参加しての「聖火リレー」となりました。  
今年の東京オリンピックで予定されている聖火リレーはこの3月25日に、「2020年聖火リレー」として福島県楡葉町をスタートし、全国857市区町村を約1万人のランナーが継走します。聖火リレーは「剣をトーチに替えて」平和の象徴としてスタートしたと聞いています。このリレーが新型コロナウイルス禍の中、オリンピック憲章の理念にどう寄り添って行われるのか、私はこの点にも注目しようと思っています。  
そして、今回は日本のみならず世界中がパンデミック下での開催となるわけです。個人的には開催を大いに望んでいます。コロナとの戦いをどう判断し開催の是非を決定されたのか、この記事が掲載される頃には判明していますね。  
ところで、かつて若人でありました皆さん、国道18号線沿いに「1964年聖火リレー」を想像？ 走破して頂くのは如何でしょうか。昔のアスリート（自称）から提案申し上げます。  
2021年3月1日  
陸文会副会長 山崎一郎（64期）記